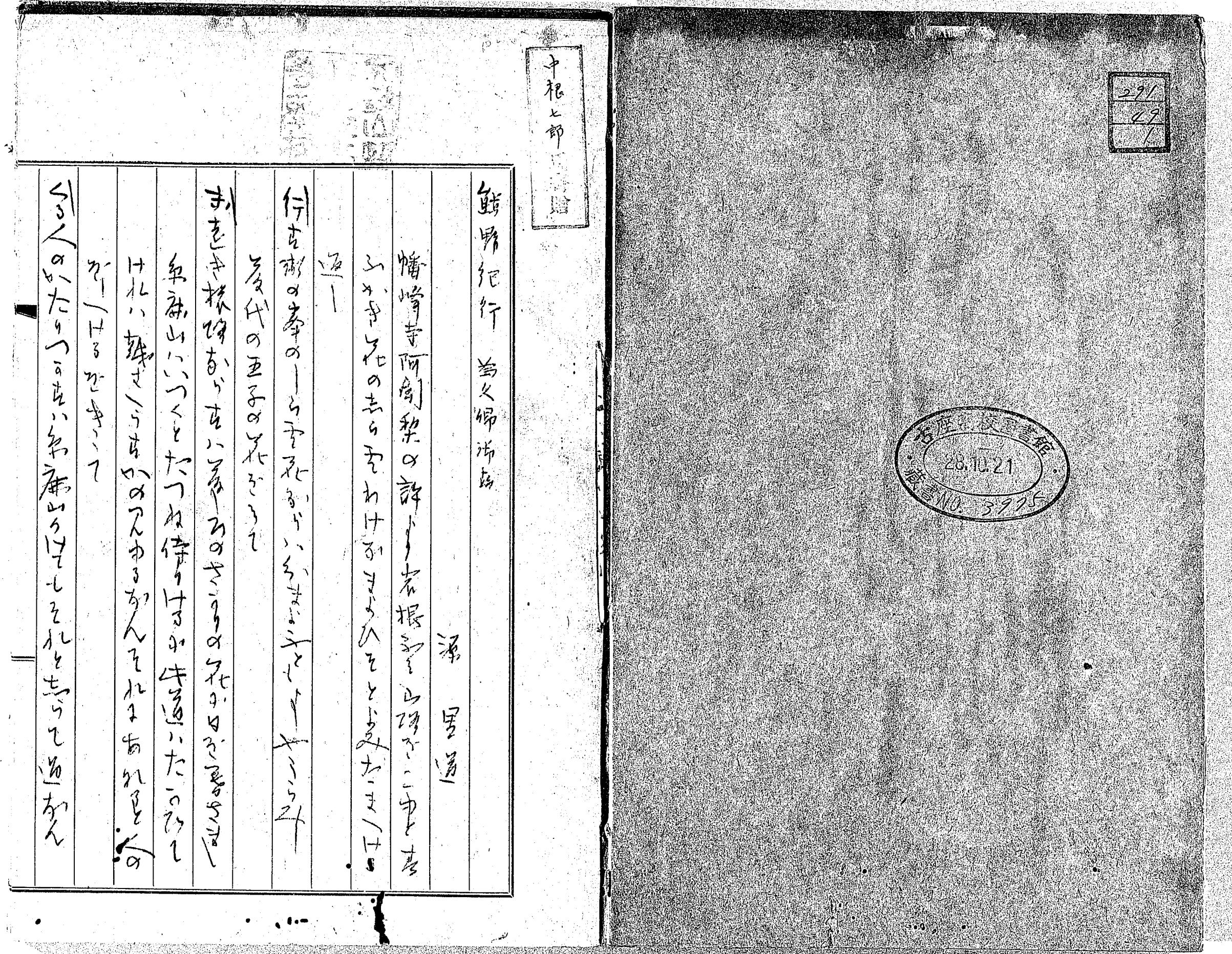


熊野紅行

丹東郡紅行

291  
49

2  
4



卷之八

卷之三

アラヤマニシタカヒロトモハシタカヒロトモハシ  
湯本と御所の海——是はハシタカヒロトモハシ

二月廿四日晴  
一  
午  
午

卷之三

丁巳年夏月  
王氏子昇作

自良濟至月余未還

卷之三

卷之三

卷之三

三  
西  
山  
下  
二

大正二年五月廿五日

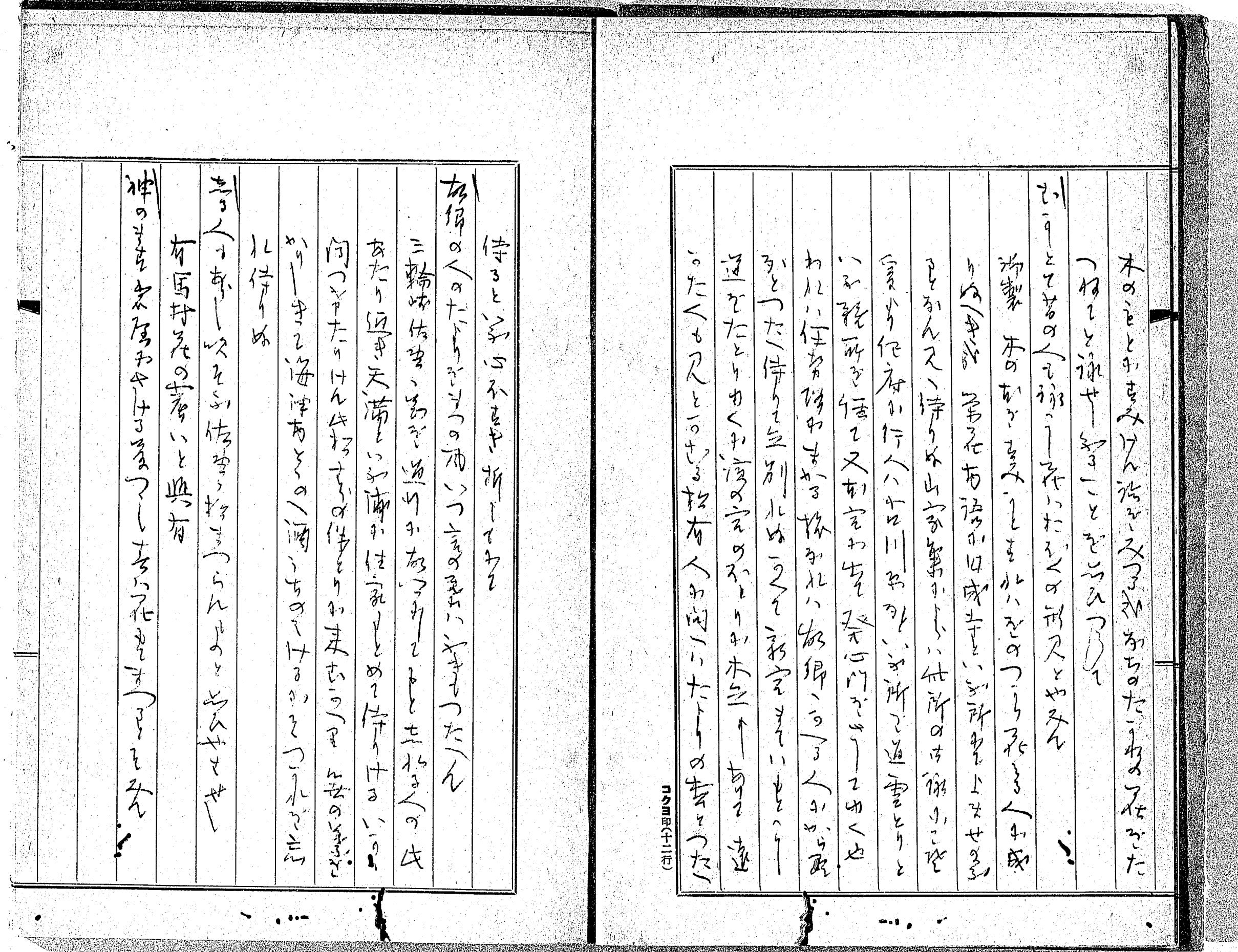
諸侯之子皆有列爵，其封地曰侯。侯者，天子之子也。

甲子年夏月  
王之春書

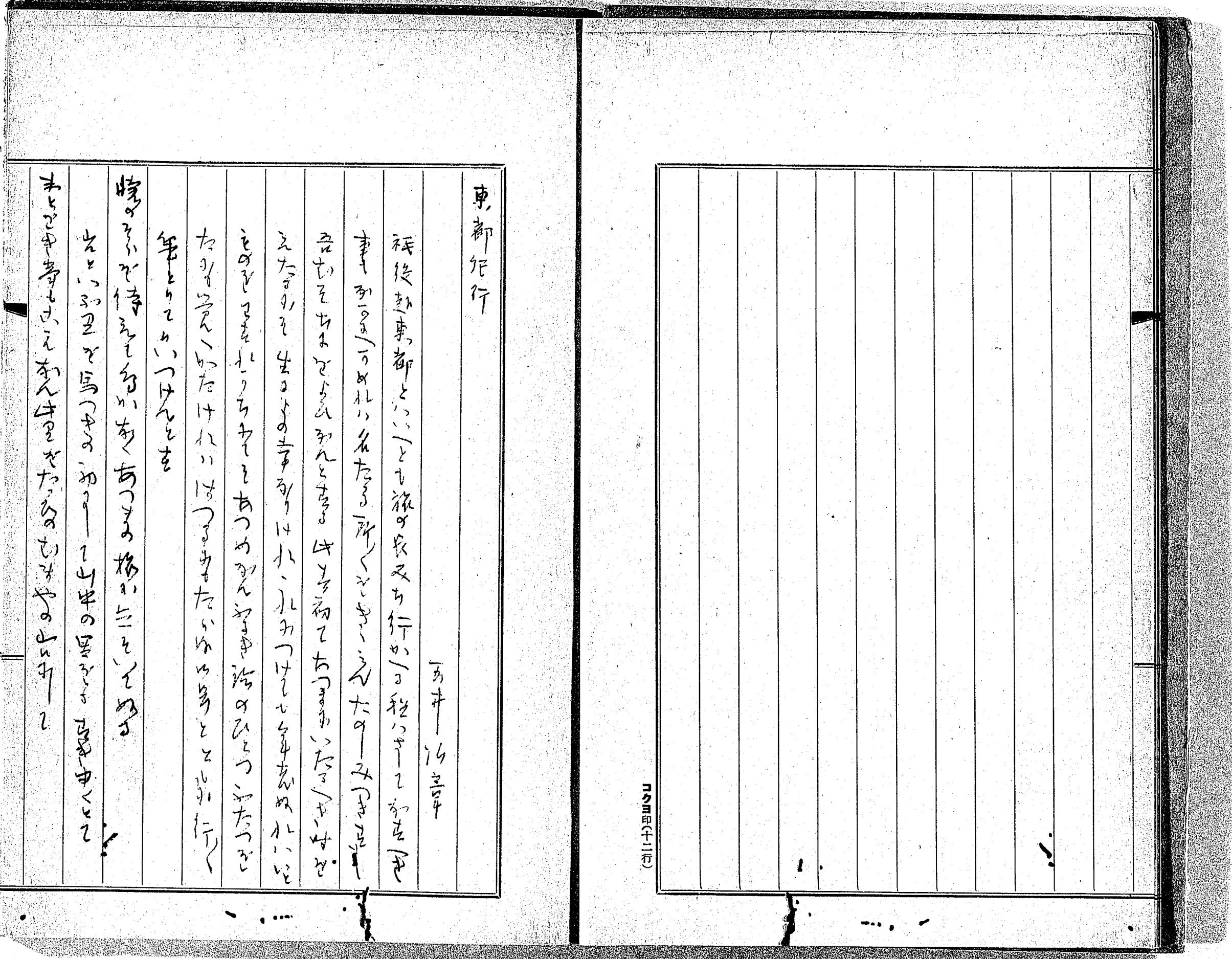
水の上へかのうで木の下に水の中

W. H. D. 1890

と  
か  
う  
4  
十  
大  
芳  
久  
1  
3  
7  
2  
1  
9  
久  
久  
4  
1  
1  
1  
2



四庫全書(十一)



卷之三

卷之三

海之北有大山曰恒山其一峰高數丈者  
名曰天柱峰

It is a good idea to have a few simple rules for your children to follow.

有子曰：「吾聞之，人情有所不能忍者。匹夫見辱，挺身而鬥，此不足為勇也。天下有大勇者，卒然臨之而不驚，無故加之而不怒。此其所挾持甚大，其志甚远也。」

卷之三

卷之三

五、一、四、一、

تَعْلِمُونَ مَا لَمْ تَرَوْنَ وَلَا تُنَبِّهُونَ إِنَّمَا يَنْهَا عَنِ الْمُنْكَرِ وَالْمُنْكَرُ هُوَ أَكْبَرُ

方正之言，其亦知也。故曰：「知者不惑。」

人之



石部上ノ事ニ而至過子七八而一トモ  
此ノ行旅至多シ一ツノ一歩ノ一部又曰而神也  
金剛山ノ因幡ノ神也或云金剛也  
或云大野也或云金剛也或云金剛也  
或云大野也或云金剛也或云金剛也  
或云大野也或云金剛也或云金剛也  
或云大野也或云金剛也或云金剛也  
或云大野也或云金剛也或云金剛也



林慶一萬能銀行人手  
白羽の旅館根室たちで行  
ては、その中で、おもに北の山と、  
小川がれり、木の森に、山の木を  
音楽がたがたがたがたがたが  
車名トヨタがたと船中ア  
新潟市陽館

He was born in 1914 at  
the village of Chitwan in the  
district of Kathmandu. He  
is the son of Shankar and  
Shanti and has three  
brothers and two sisters.  
He is a graduate in  
Buddhist studies and  
has written several  
books on Buddhist  
philosophy and  
scriptures.

了。我說：「你說的對，我這人也太愛想入非非了。」他說：「你說得對，我這人也太愛想入非非了。」

卷之三

た手當が、お行けたる當時に叶ひて、おこり草花  
おほきに咲き誇る大山の山と、奥河内をまたぎて、  
又御立派な山と、  
お山のそばで、お行けたる當時に叶ひて、おこり草花  
おほきに咲き誇る大山の山と、奥河内をまたぎて、  
又御立派な山と、

たて今其の事一叶したる。彦名を一と名にす。打せぬ  
雲井に船を下りて、舟と陸地が一と爲の橋  
の事也。又え波を走る事一と、舟一と、太一と。  
さか  
うきは傳承する水の沙謡を坐の上りゆる  
舟中一と、土と水とが一と、火と水とあたる事也  
てええ也  
ひそたと向日舟えの可と、舟を賣す事もあら  
はねね船と江の海と、もとと  
おおの波と風と雪と、舟と車と、風と雨と、  
天鏡川の二本大木と、舟と車と、江戸の弓の  
とさと、  
ひげよせ

遠く東に山と樹の又ちこぎる。と向日一叶して  
天鏡の水上、諺前と海と引イキ川と、一と、天牛川と、  
古の海の三、十の本と、一と、天の神等、山と、入山と、  
乞子といふ事わざの、かへり、かはり、  
よの風が吹ふすかやうか、と、かたま旅の事  
ゆりかけの、次と、當と、  
情をいたれりの事わざ、いわて、せりと、  
これも今御前と、今年まだ一叶、この佐渡の牛山  
の草が、高木一枝の事、ひし半と、かの佐渡牛山  
菊川と、いふ事わざ

十二月廿四日  
晴

大英圖書館藏

母子で浪打山の下を登る。母は子供を抱き、母の手を握る。子供は母の手を握り、母の手を握る。

17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31

all the time, and I am

大正十九年九月廿五日  
御前將軍

•

山中湖の山の木の葉の音

生於國都，亦復可謂之大行。

故人之子也。故人之子也。故人之子也。

卷一百一十二

卷之三

卷之三

外國人之言也。故曰：「我無以與也。」

the first time I have seen it.

「是子實之才，一時清流之士，而亦有持物外焉。」

此一卷之題目皆以詩句爲之，如上所引者是也。

出へり。又は夢の事。かくかく。かくかく。

其一  
其二  
其三  
其四  
其五  
其六  
其七  
其八  
其九  
其十

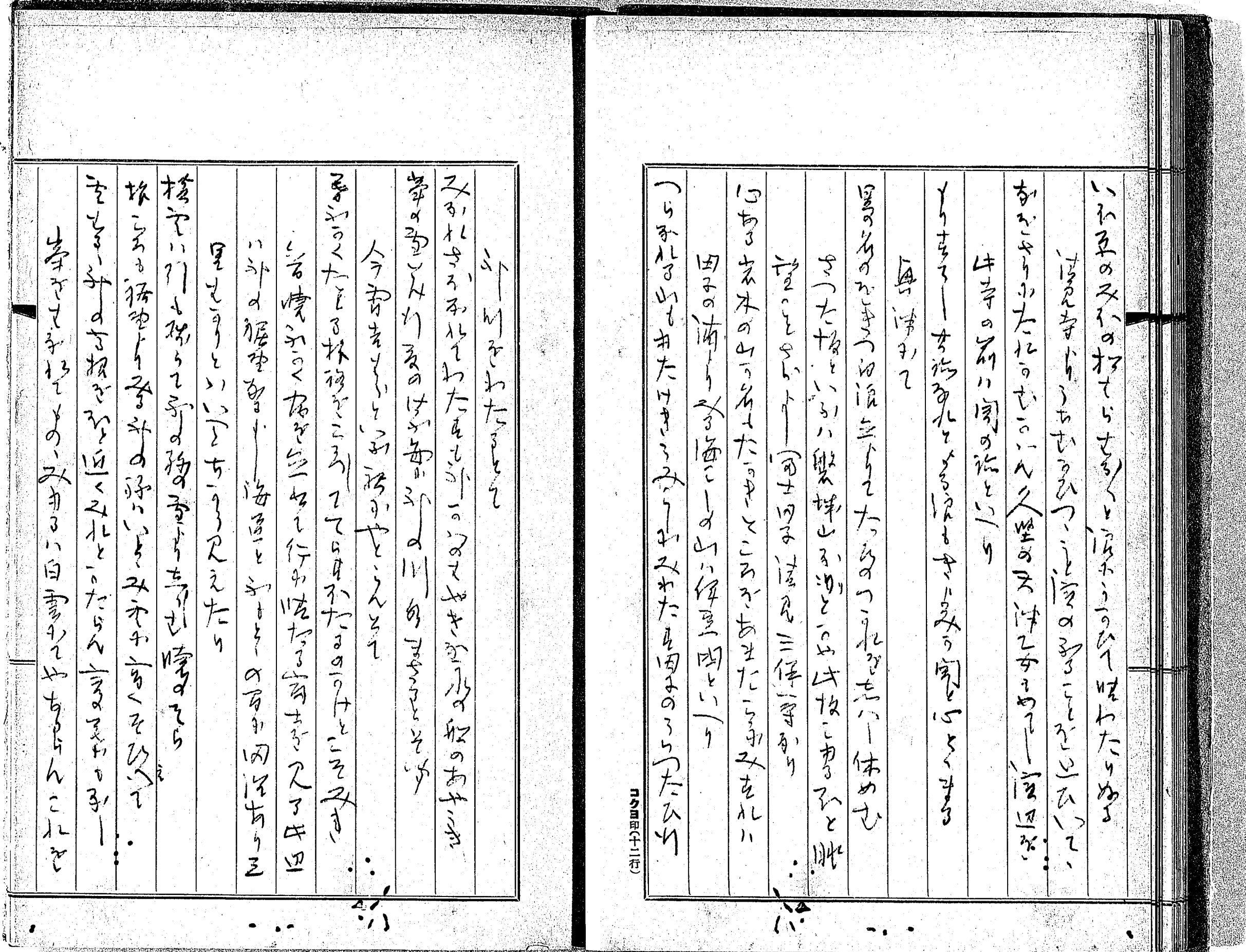
卷之三

卷之三

卷之三

シハニ、御前御内に御用事也、

ヨクヨウ(十一行)



御子の命とるに、一の山へ、我等の行ゆ  
此處へ一之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、二の山へ、我等の行ゆ  
此處へ二之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、三の山へ、我等の行ゆ  
此處へ三之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、四の山へ、我等の行ゆ  
此處へ四之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、五の山へ、我等の行ゆ  
此處へ五之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、六の山へ、我等の行ゆ  
此處へ六之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、七の山へ、我等の行ゆ  
此處へ七之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、八の山へ、我等の行ゆ  
此處へ八之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、九の山へ、我等の行ゆ  
此處へ九之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十一の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十一之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十二の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十二之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十三の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十三之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十四の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十四之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十五の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十五之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十六の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十六之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十七の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十七之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十八の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十八之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、十九の山へ、我等の行ゆ  
此處へ十九之を、おまかせす。其の事、  
御子の命とるに、二十の山へ、我等の行ゆ  
此處へ二十之を、おまかせす。其の事、

這事是說到那裏去，我說：「我這人，是沒有好處的，我這人，是沒有好處的。」

水經注卷之三十一

其後一月，又上北山。

庚子年二月大清正月廿九日立於松江之南  
丁巳歲五月初一

卷之二

卷之十一

卷之三

卷之三

八月夏涼  
海道  
九月秋寒  
山中  
十月大雪  
不盡山

文部省令第12号  
明治24年1月1日  
本件告成ノ一文書ト同く文部省より之ニ付

是の事は「古くから御社の御事多々有る」  
云ふ而して古事記傳記に「水之神社傳

卷之三

本院一月前即有此意  
但因未得人而未行

人主深以懷念。每多慨然。若有所失。及入  
官禁。則心神安寧。無復懷念。

与子共之 鸟聲

九月三十日  
晴

卷之三

レーベンの本大抵がアーティストの手に  
いってゐる

アリハルタナハル

此本草稿之序言也

卷之三

萬不外一處。一處的油鹽布匹，本來沒有甚麼人。

五  
十一

故人之子也。子曰：「吾與之。」

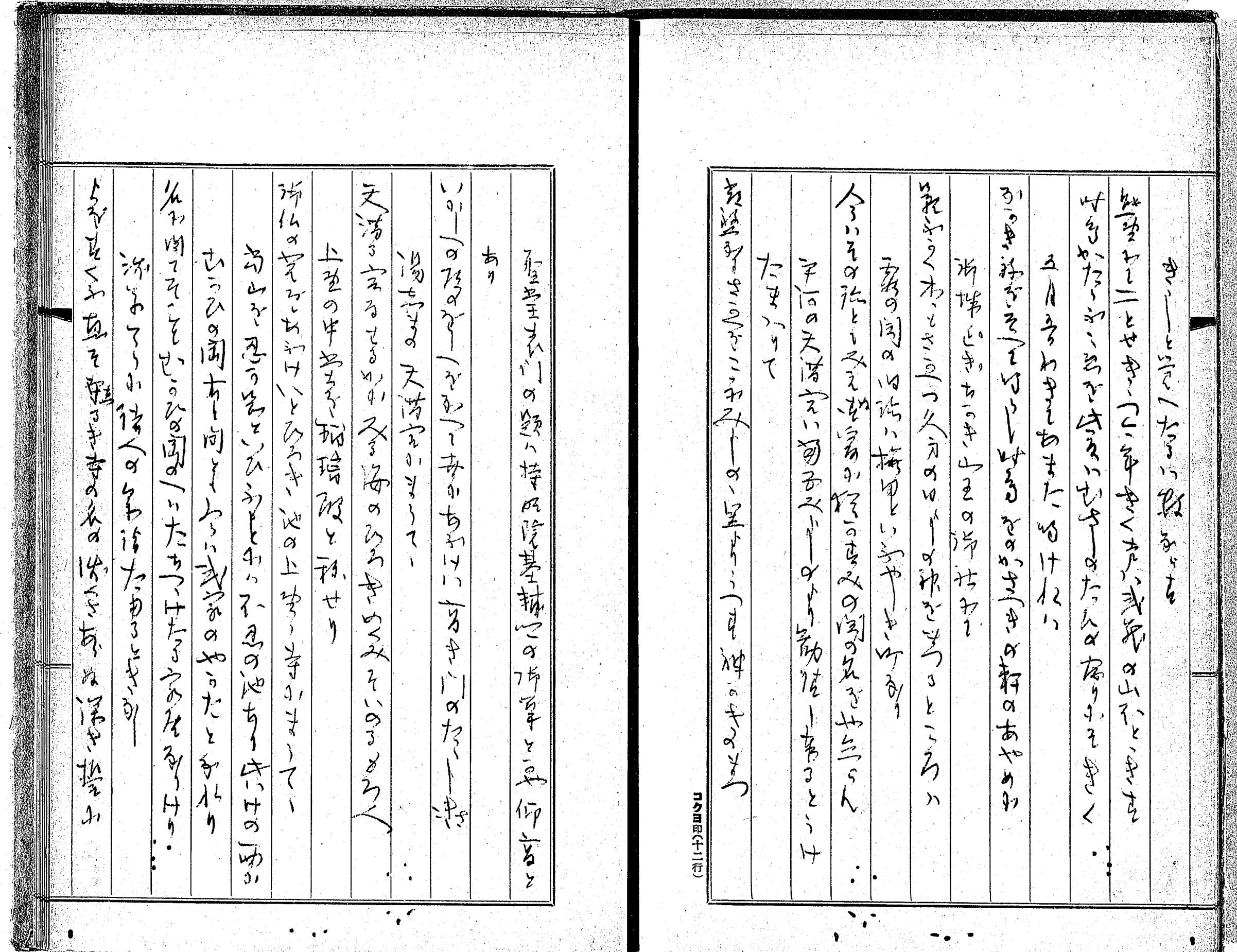
文選卷之三十一 初唐詩序

方以子因子而生，子生於母，母生於子。子與母，子與子，皆無所生。

乙酉正月廿二日水旱之灾于中野

子一也。并之，後江才了，子大之，是水也。其

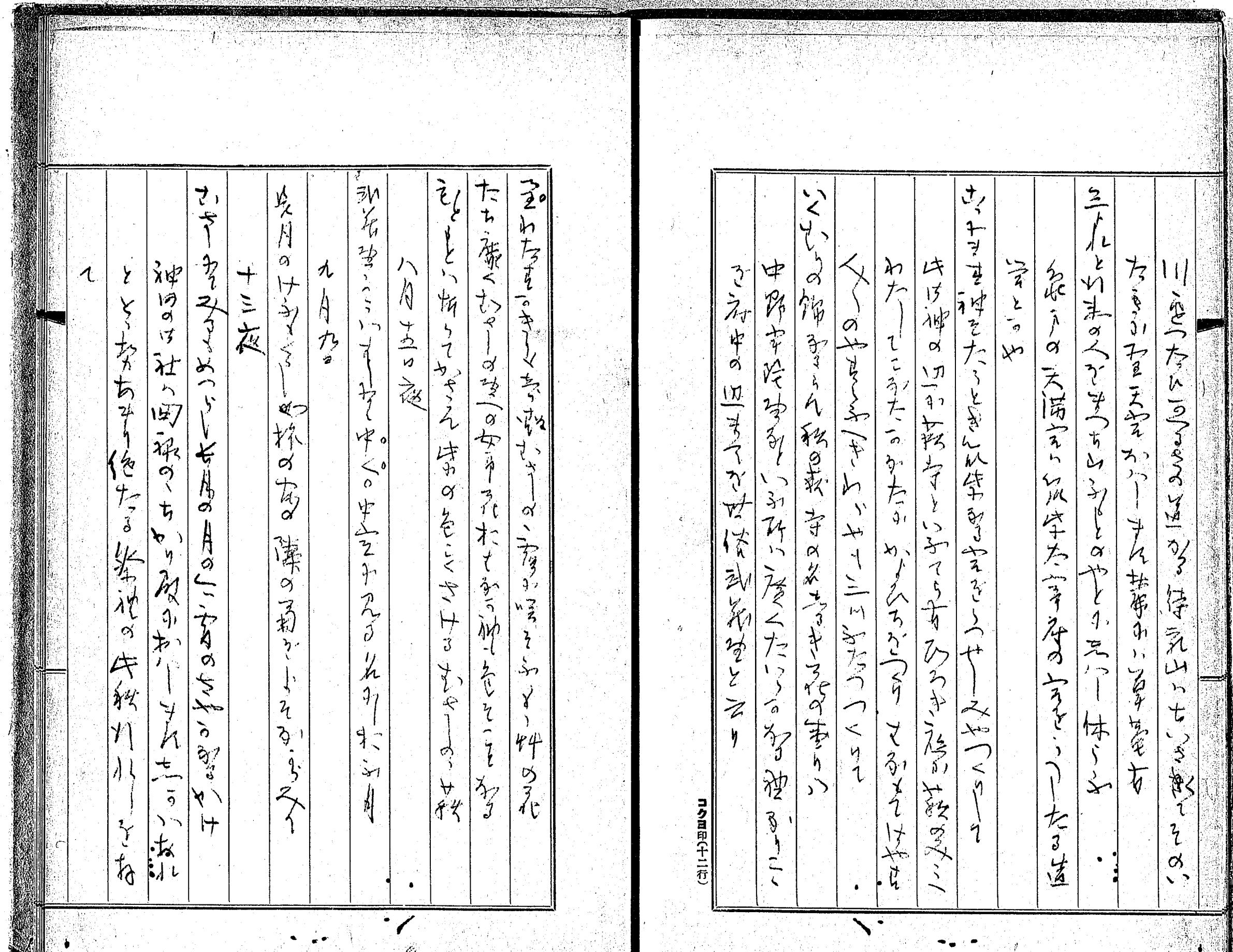
日一月之內不以爲不快也



8 9 10 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03975 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9

卷之三十一





8 9 10 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03975 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

卷之三

• 14.03.2011 14:45:00 - 14:45:10  
• 14.03.2011 14:45:10 - 14:45:20  
• 14.03.2011 14:45:20 - 14:45:30  
• 14.03.2011 14:45:30 - 14:45:40  
• 14.03.2011 14:45:40 - 14:45:50  
• 14.03.2011 14:45:50 - 14:46:00  
• 14.03.2011 14:46:00 - 14:46:10  
• 14.03.2011 14:46:10 - 14:46:20  
• 14.03.2011 14:46:20 - 14:46:30  
• 14.03.2011 14:46:30 - 14:46:40  
• 14.03.2011 14:46:40 - 14:46:50  
• 14.03.2011 14:46:50 - 14:47:00  
• 14.03.2011 14:47:00 - 14:47:10  
• 14.03.2011 14:47:10 - 14:47:20  
• 14.03.2011 14:47:20 - 14:47:30  
• 14.03.2011 14:47:30 - 14:47:40  
• 14.03.2011 14:47:40 - 14:47:50  
• 14.03.2011 14:47:50 - 14:48:00  
• 14.03.2011 14:48:00 - 14:48:10  
• 14.03.2011 14:48:10 - 14:48:20  
• 14.03.2011 14:48:20 - 14:48:30  
• 14.03.2011 14:48:30 - 14:48:40  
• 14.03.2011 14:48:40 - 14:48:50  
• 14.03.2011 14:48:50 - 14:48:55

乙巳年正月廿九日

三月廿四日晴。晚晴。晴。晴。

卷之三

卷之三

アーチーは、アーチーの妻のアーチー

大之如廬太之如室，其室也，其廬也。

清江一曲抱村流，  
綠樹村邊合，  
牧童遙指杏花村。

卷之三

聖古德之名，存於後世，故曰「聖古德」。

江原道提學司告川平治不以爲可

10/5 - Met with Mr. Johnson, the author of the  
new book.

卷之三

一其人也。今方於此之急，其一念之非，則一念之失。

卷之三

此一派之大者甚多如五台山少林寺天台云

大井川

7

十一月廿二日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿三日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿四日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿五日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿六日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿七日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿八日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。  
十一月廿九日  
晴  
早晴，午後雲霧，風微寒。晨起，天晴，風急，寒甚。午後，雲霧，風微寒。晚晴，風急，寒甚。

長葉師

九

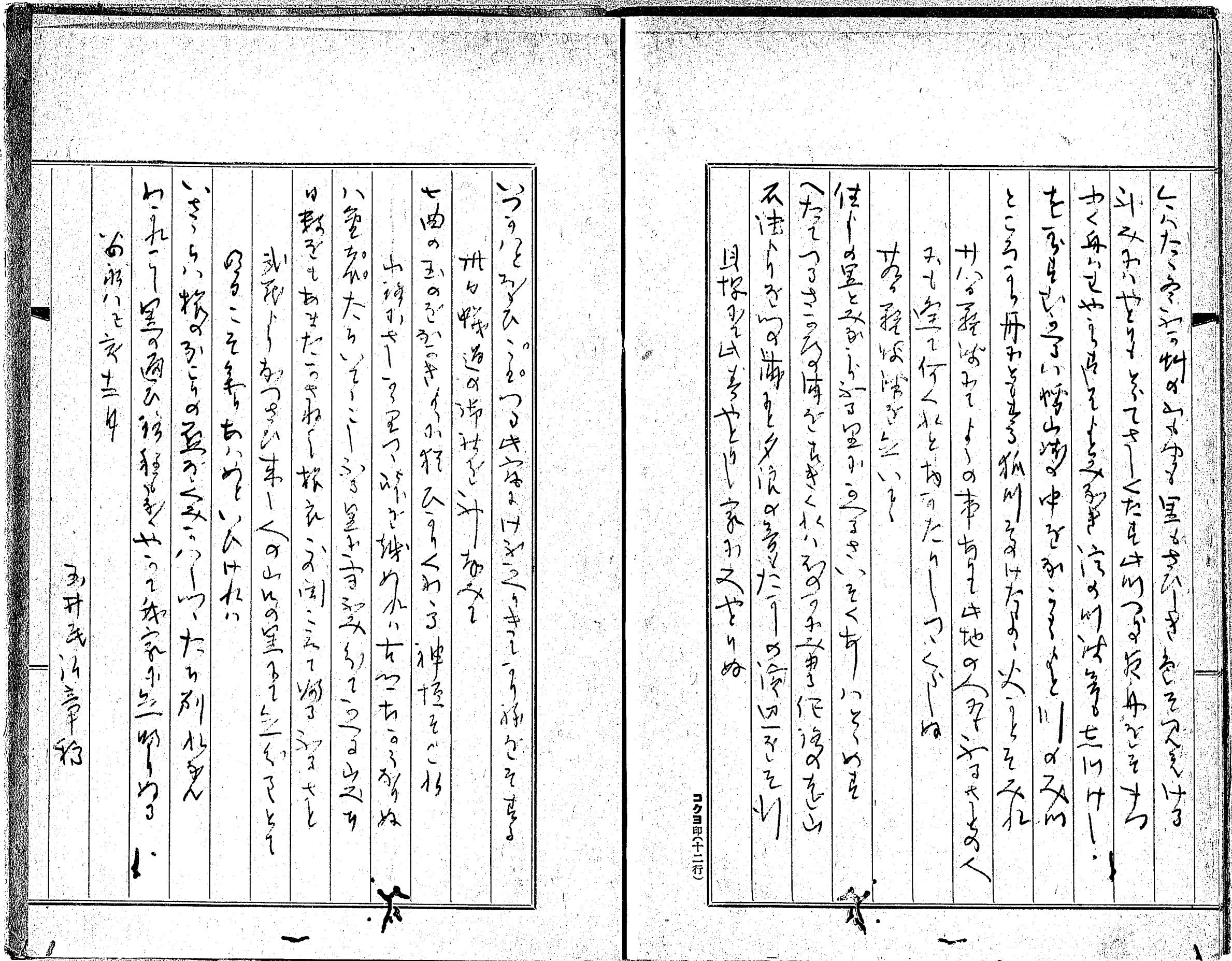
卷之三

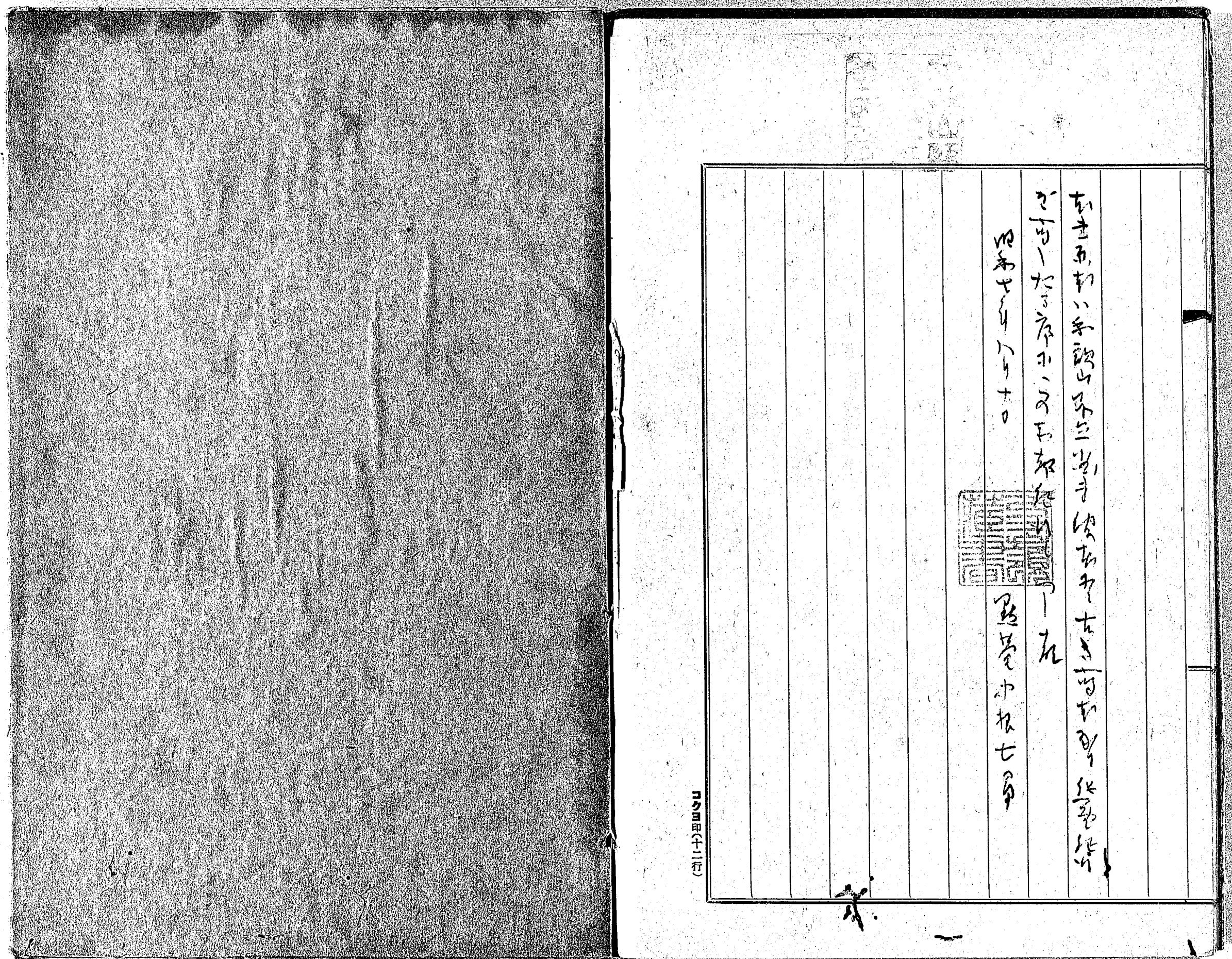
カニモトタクミ

卷之三

卷六

卷之三





四庫印(十一行)

8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03975 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9